

2. 今後の取組に向けて（案）

目 次

2.今後の取組に向けて（案）	 3
（１）「すかいプロジェクト」推進にあたっての課題と改善策	 5
（２）民間事業者からの事業提案募集	 8

2. 今後の取組に向けて

本市の介護予防に関する課題と「すかいプロジェクト」各事業での対応状況

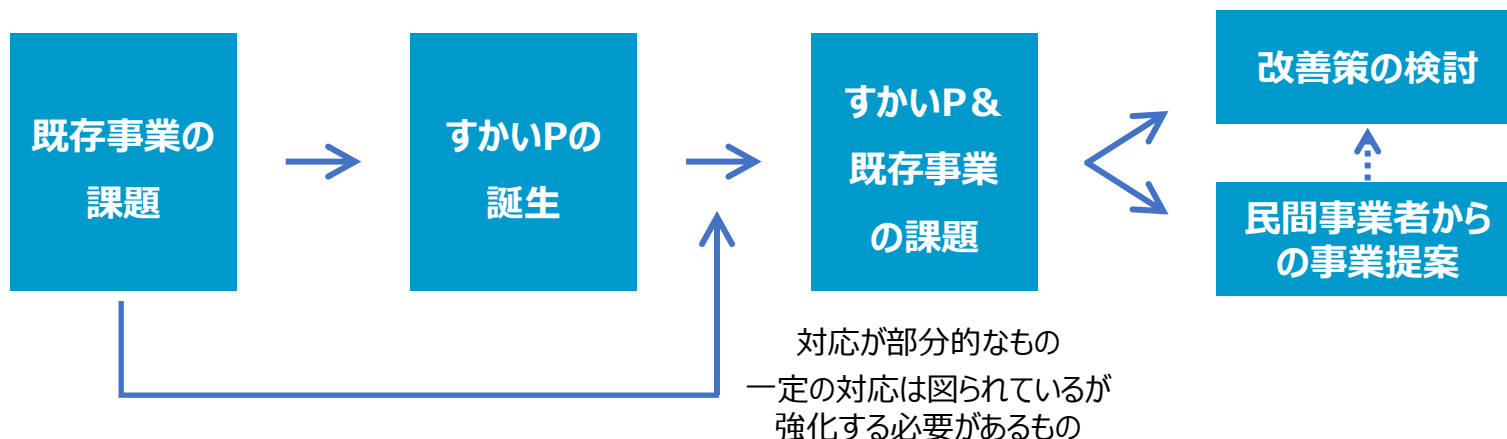
状況等			課題	対応	
高齢者の世帯状況（類型）※1		単独世帯45% 大都市比較で1位	運動器の機能低下や閉じこもり傾向が比較的高い単独世帯への重点的アプローチが必要	△	
要介護認定状況 ※2	年齢階級	60歳代後半5% 70歳代後半19%	要介護等認定率が低い60歳代や70歳代の人への強力なアプローチが必要	○	
	要介護度	大都市比較で、要介護3～5及び要支援の割合が高い	要介護等認定者の状態改善・重度化防止には、介護事業者が行う介護予防の取組みの活用が重要	○	
介護・介助が必要になった原因 ※3		1位「骨折・転倒」 2位「高齢による衰弱」 3位「認知症」	介護・介助が必要になった原因やそのリスク要因（特にフレイルやロコモ）にフォーカスした取組みが重要	○	
高齢者の意識・行動 ※4	介護予防に取り組んでいない理由	1位「介護予防に取り組まなくても日常生活に支障がない」	特段の理由なく 介護予防活動に取り組んでいない人への仕掛けが必要	介護予防の必要性・重要性についての認知・理解（意識変容）を促す必要	○
		2位「外に出るのがおっくう」		外出したくなる（外出を促す）魅力的な活動を提供する必要	○
		3位「取組み方がわからない」		取組内容や方法等についての理解・行動を促す必要	○
	外出を控えている理由	1位「足腰などの痛み」	外出を控えている理由を解消し、介護予防活動を推進する取組みが必要	適切な受診や慢性期での適切なトレーニングについての理解・行動を促す必要	○
		2位「外での楽しみがない」		外出したくなる（外出を促す）魅力的な活動を提供する必要	○
		3位「経済的に出られない」		経済的にメリットのある活動を提供する必要	△

※データ出典 1 総務省「令和2年国勢調査」 2 大阪市福祉局調（2024(令和6)年3月末）

3 大阪市「令和4年度大阪市高齢者実態調査（介護保険サービス利用者調査）」 4 大阪市「令和4年度大阪市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」

△：部分的に対応

- 「すかいプロジェクト」については、本市高齢者の状況や介護予防等活動に対する意識等から、これまで本市が取り組んできた介護予防事業（既存事業）における課題等を抽出し、第1回介護予防推進プロジェクトチーム会議でのご意見等を踏まえながら、各事業を構築したもの。
- 「すかいプロジェクト」の深化・発展に向け、取組みを進めていくなかで対応すべき課題について、改善策を検討していくこととしたい。
 - ・ 介護予防の重要性に関する認知度・理解度の向上
 - ・ 外出を促す取組みの拡充－高齢者の就業促進
 - ・ 重点期間終了後の介護予防事業の推進
- また、課題のうち、新たな観点での取組みを検討するため、広く民間事業者から事業提案（アイデア）を求めることとしたい。



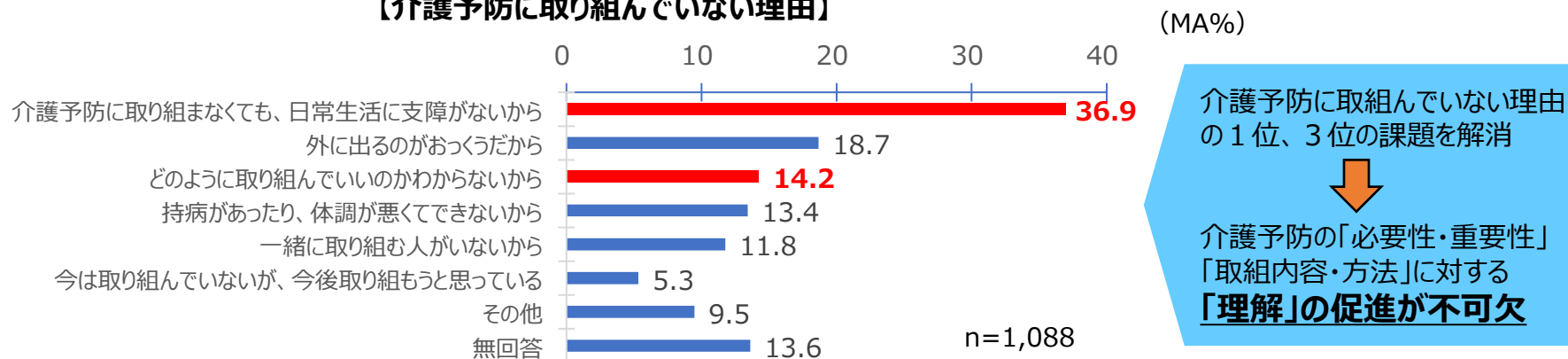
2. (1) 「すかいプロジェクト」推進にあたっての課題と改善策

介護予防の重要性に関する認知度・理解度の向上について

<課題>

- ・「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」において、介護予防に取り組んでいない理由の1位は「介護予防に取り組まなくても、日常生活に支障がない」（37%）で、2位の「外に出るのがおっくう」（19%）の約2倍。
- ・高齢者自身が日常生活の中でフレイル予防や介護予防に積極的に取り組んでいただけるよう、意識変容を促していくことが何より重要。
- ・介護予防活動の活性化に向けては、理解促進の取組みが重要な入口であり、より多くの方にガイドブックを手にしていただくことや、非常に多くの方に効果的な発信が可能となる大規模イベントや定期的なイベントの開催など、高齢者世代に加えてより若い世代の意識変容も促していくための、より工夫を凝らした広報活動が必要。

【介護予防に取り組んでいない理由】



<改善策>

4つの柱の「知る」の中で、幅広く広報周知を実施する「介護予防理解促進事業」を強化

- ・ ガイドブックを増刷し、特定年齢以外の方にも個別配送
- ・ 介護予防に関する大規模なイベントや屋外広告（交通広告等）を活用し、広報周知を更に強化

外出を促す取組みの拡充－高齢者の就業促進について

<課題>

- ・ 就業は、人や社会とのつながりを維持し、社会貢献への達成感が得られ、かつ報酬も得られる魅力的な介護予防の取組み。
- ・ 高齢者が外出を控えている理由で「経済的理由」が3位であり、経済的にメリットのある取組みの充実が必要。
- ・ 就業を通じて高齢者の生きがいがづくり・社会参加をすすめるシルバー人材センター※の会員数増加と就業機会の拡大が必要。 ※健康で働く意欲のある高齢者に臨時的・短期的または軽易な仕事を提供する公益法人各市区町村に設置され、都道府県知事の許可を受けて運営されている

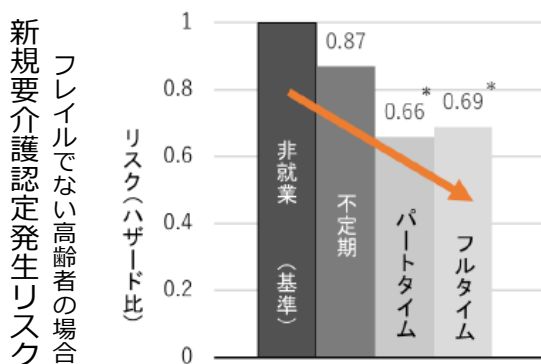
<改善策>

シルバー人材センターの会員にお仕事情報を発信するため、現行システムの機能を拡充

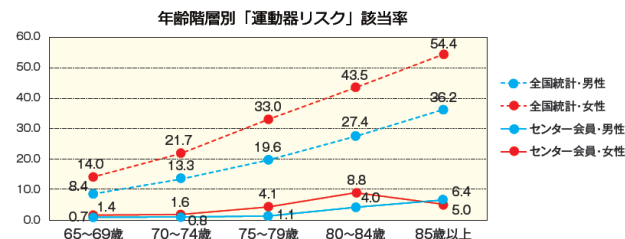
- ・ 会員数増加のためWeb上でシルバー人材センターへの入会説明や入会手続きができる環境を整備
- ・ いつでもどこでもWeb上でお仕事情報の確認・申し込みを可能とし就業機会拡大

≪参考≫

東京都健康長寿医療センター研究所が、「働くことで身体機能が維持され、要介護になるリスクが低下する」という研究成果を発表しています。



シルバー人材センターの介護予防効果に関する研究において、要支援・要介護状態となる可能性の高い予備軍を抽出する調査ではシルバー会員の該当率が一般高齢者より低いことを確認している。とくに、「運動器リスク」は70代後半や80代など後期高齢者層になるほど、シルバー会員は高い健康水準を維持している。



重点期間終了後の介護予防事業の推進について

<課題>

- ・令和9年度まで重点的に実施する「すかいプロジェクト」での事業実績等を踏まえ、現在及び将来の本市の状況等を見据えた効果的な介護予防施策を構築する必要がある。

<改善策>

「すかいプロジェクト」をはじめ、介護予防に関する事業全般を分析・評価し、新たな事業体系の構築等を検討

- ・「すかいプロジェクト」各事業、一般介護予防事業、高齢者福祉事業等、さまざまな事業の分析・評価
- ・他都市（行政）や民間企業での効果的な取組みの調査
- ・上記を踏まえた本市の実情に応じた新たな介護予防事業や、本市の人口構造等から将来必要となる介護予防の取組み等の検討



2. (2)民間事業者からの事業提案募集

事業提案募集の手法について

- ・ 新たな観点での介護予防の取組みを検討するため、広く民間事業者からアイデアを求めることのできる「リバーСПitch」の手法により事業提案募集を行う。

《リバーСПitch》

- ・ 企業が自社サービスをプレゼンする通常のPitchとは逆に、自治体が課題を発表し、企業が解決策を提案することで両者のマッチングを図り、共創型の官民連携を生み出す取組
- ・ 経済産業省や都道府県、金融機関が主催して地域の市町村が課題を発表するなど、共創型の官民連携を作り出す手法として広がりを見せている

リバーСПitchの実施について

- ・ グラングリーン大阪のイノベーション拠点「JAM BASE」で開催されている官民共創の社会課題解決プログラム「XKANSAI ソーシャルイノベーション・プログラム」を活用し、**10月17日の自治体Pitchイベントに横山市長が登壇**して事業提案を求める。

《JAM BASE (ジャムベース)》

- ・ 多様な人々が集い交わることで、アイデアやイノベーションを生み出すグラングリーン大阪の中核機能施設



《XKANSAI (クロスカンサイ) ソーシャルイノベーション・プログラム》

- ・ 自治体が直面している課題を集約・構造化し、解決につながる要素を選定し、民間企業から解決のための事業企画の募集を行う、うめきた未来イノベーション機構（U-FINO）主催のプログラム（今年度は「健康・ヘルスケア」、「脱炭素・ごみゼロ」、「安心安全なまちづくり」の3つの課題を設定）

XKANSAI（クロスカンサイ）ソーシャルイノベーション・プログラム活用した事業提案募集

THEME FOR THIS YEAR

2025年テーマ

脱炭素・ごみゼロ



世界的な環境負荷を減らし、生態系を維持する取り組みが今後も基調的に続くと考えられます。「みどり」と「イノベーション」の融合拠点をまちづくりの目標に掲げるグラングリーン大阪より、一層のアクションを促します。

健康・ヘルスケア



関西は健康寿命が全国平均以下の傾向となっています。グラングリーン大阪のコンセプトや2025年大阪・関西万博の開催テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」とも合致するため、X KANSAIで取り上げていきます。

安心・安全なまちづくり



関西への大きな被害が想定される南海トラフ地震など災害に備える防災や、人々の生命や財産を守る基盤となる防犯など、まちづくりに欠かせない社会課題について、新たなまちグラングリーン大阪において共創に取り組みます。

本市は、3つのテーマのうち「健康・ヘルスケア」分野から介護予防に関する事業提案を求める。

【提案のポイント】

- ・ 参加につながる効果的な動機付け（意識変容・行動変容を促す仕組み）
- ・ 多様な住民が参加したくなる、参加のハードルが下がる仕組み
- ・ 継続を促す工夫（飽きさせない仕組み、習慣化する仕組み）など

《プログラムスケジュール》

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
公募期間		10/6～11/17までU-FINOのサイトで公募					
説明会・ワークショップ (リバーズピッチ)		★ 第1回 10月17日	第2回 10月31日				
書類審査							
優秀提案表彰						1月30日 ピッチコンテスト	

良い提案があれば、まずは実証実験（無償）等により効果検証を行い、本格導入を検討していく